

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスブルームへちま		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 19日		～ 令和8年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 8名	(回答者数) 6名	
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4名	(回答者数) 4名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スヌーズレンや音楽療法など感覚刺激を多く取り入れています。	児童個々の特性やその日の状態を把握し、刺激量を調整したり、子どもたちが落ち着ける空間として活用しています。また、音楽療法ではリズム・楽器選択など、子どもの興味に合わせた活動を行っています。	職員間で情報共有を行い、支援の質の均一化を図ります。活動の効果を記録し、支援計画に反映させます。
2	同グループ内の福祉施設のイベント参加を通して、地域交流ができます。	無理のない参加時間・環境整備を行っています。交流後に振り返りの時間を設け、子どもたちの楽しい気持ちや成功体験が増えるようにしています。	継続的な関係づくりができるよう、定期的な交流機会を設けます。グループ外の地域行事やボランティア活動への参加も検討します。
3	菜園活動に取り組んでおり、土や野菜に実際に触れる機会を設けています。また、自分たちで作った野菜でクッキングもしています。	季節ごとの野菜を選び、成長過程を観察できるようにしています。野菜が苦手な子どもでも参加しやすいよう、触れるだけ・匂いをかぐだけなど段階的な関わりを大切にしています。また、収穫から調理までの一連の流れを経験できるように支援しています。	活動のねらい(野菜に愛情をもって育てる経験や達成感、食育など)を明確化し、支援計画へ反映させます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との連絡手段が固定電話しかないため、営業時間外に連絡が取れません。	職員の業務負担や個人情報管理の観点から、連絡ツールの拡充が進んでいません。	連絡方法や対応時間について保護者へ事前に周知し、安心して利用できる体制づくりを行います。
2	土曜日の営業ができていません。	職員の人員確保が難しく、土曜日の安定した人員配置が難しいです。	利用ニーズを把握した上で、段階的な土曜日営業の実施を検討します。職員の負担軽減と働きやすさを考慮しながら、無理のない運営体制づくりも検討します。
3	保護者同士の交流の場が少ないです。	保護者の就労などの状況もあり、全員が揃うことが難しいです。事業所として交流の場を十分に設けられていません。	保護者の負担にならない形で、意見交換や情報共有の場づくりを検討します。